

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知南：英語教育プログラムについて

【概要・目的】

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、学習の振り返りを中心に協議。

平成28年度の当初計画（P）

【本年度の到達目標】

- ① 「CAN-DO リスト」と「6年間のシラバス」を関連付け、系統的な指導をする。
- ② 1時間1時間の授業で生徒が「英語を用いて～できる」となり、生徒がそれを実感できるよう、生徒との目標の共有、生徒が自身の現状を可視化できる手立てを工夫する。
- ③ 「知識・技能」を活用し、英語で表現する力・理解する力を測るテストを実施する。

【本年度の取組内容】

- ① 各学年終了時の生徒の姿を具体的にし、「CAN-DO リスト」の到達を目指し指導する。付けたい力を意識した単元の目標と評価規準を設定し、系統的な指導をする。（「6年間のシラバス」に反映させ、短期・長期的なイメージをもって指導する。）
- ② 授業では単元や1時間のめあてを提示し、それに対する振り返りを行い、主体的・協働的な学びを目指す。生徒の自己評価や相互評価を取り入れ、生徒が自己の学びを客観視し、その後の学習につなげる。
- ③ 指導と評価の一体化を図るために、妥当性のある筆記テスト・パフォーマンステストを作成し、生徒の学習状況の把握・授業改善に生かす。
- ④ 英語学習への意識実態・把握調査を年2回実施し、授業改善に生かす。

【第1回グローバル教育推進委員会でのご意見】

- ・授業の中で目的をもって英語を使っていくことは英語運用力を付けていく上で必要であるが、知識・理解、それを活用して表現する力の定着を図る指導が必要ではないか。
- ・「CAN-DO リスト」をもとに実現状況を確認するとは、どのような状況で、何が達成されて、何ができていないのかを具体的に挙げてほしい。
- ・学習の振り返りをするために、明確なゴールを設定し、生徒全員が授業の目標が分かるような工夫をしてはどうか。
- ・中学生に求める活動や目標を明確に示すようにしてはどうか。（以前に参観した授業では、対話する場面で、聞き取ったことを書くことが中心になっており、相手に関心をもって何かを聞こうとか、やり取りしようという授業ではないものがあった。
- ・「CAN-DO リスト」が、知識の獲得のみに偏らないように注意すべきである。
- ・学習方法のスキルをチェックするために、分析する力や情報を選択する力、考える力等を確認してはどうか。

平成28年度の取組状況（D）

【「CAN-DO リスト」の到達を目指した指導】

- ・授業者間で、「CAN-DO リスト」と2学期の各単元の指導内容との関連、各単元のゴール活動やパフォーマンステスト、筆記テストの内容を確認した。
- ・授業では、1時間のめあてを「～することができる」の形で提示し、振り返りでは、めあてに対して、生徒が自己評価や相互評価をしたりしている。（単元ごとの振り返りシートの活用）
- ・授業が、実際のコミュニケーションの場となるよう、活動を設定するときには、目的をもって英語を使わせるということを意識している。
- ・教科会で、学習指導要領を踏まえた単元の目標設定、評価方法について協議をし、英語科として授業改善の意識が広がっている。10月中旬までに、中高英語教員15名のうち、8名が教科会、または指導主事と指導案検討をした上で研究授業、事後協議を行った。

【筆記テスト・パフォーマンステストの改善】

- ・教科会で筆記テストをコミュニケーションの視点、妥当性等から検討した。
- ・中学校では、4技能（聞く、話す、読む、書く）を系統的に指導し、「CAN-DO リスト」に到達できるよう、パフォーマンステストのルーブリックを作成中である。

【平成28年度第1回英語学習への意識・実態把握調査結果】

- ① **調査の目的**
生徒の英語の学習状況や学習意欲等を把握することで、今後の指導内容及び指導方法の改善等、英語教育プログラムの開発・実践に生かす。
- ② **調査対象**：高知県立高知南中学校・高等学校全生徒
- ③ **調査時期**：平成28年度5月最終週～6月第1週
- ④ **調査の概要**
・前年度と比較すると、生徒及び授業者の英語使用は増えている。本年度は、授業改善の視点を中学校は「自分の考えや気持ちを伝え合う力の育成」、高校は「情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりする力の育成」としたことにより、聞いたことを伝える、話したことを書く、読んで分かったことを伝える等技能を統合した活動を設定するようになったからだと考える。
・生徒の課題意識が生まれるような、めあてや活動の設定に課題があると考える。

項目	中学校（前年度比）	高校（前年度比）
授業で英語を積極的に使っている	73.8% (+ 7.3%)	52.0% (+ 9.8%)
先生より生徒が英語を使っている時間が長い	55.5% (+15.8%)	29.3% (+ 2.1%)
課題に対して自分の考えを持っている	71.6% (- 3.3%)	63.8% (+10.7%)

課題と今後の取組（C、A）

課 題

【「CAN-DO リスト」の到達を目指した指導と評価】

- ・単元や1単位時間の授業の終わりに、生徒がどのような英語で話したり、書いたりできるようになるかという姿が授業者にとって明確になっていないため、評価をする視点を具体的に生徒に示すことができていない。
- ・授業中、1時間のめあての達成に向かっている生徒をモデルとして全体で共有し、その後の学びにつなげる場面が少ない。

今後の取組

【「CAN-DO リスト」の到達を目指した指導と評価】

- ・週1回の教科会で、単元の目標や評価、生徒の学びの状況等を話し合う。
- ・パフォーマンステストのルーブリックを作成し、そのルーブリックで評価をし、不適切な部分があれば、修正する。
- ・学習指導要領の指導事項、「CAN-DO リスト」を踏まえて筆記テストを作成する。教科会で作成したテストについて話し合い、到達目標を測るものになっているか検討する。
- ・生徒が「何ができているのか、どの技能のどの部分の力を付けていけばいいか」を自覚できるパフォーマンステストの返し方を検討する。

【授業改善に向けた取組】

- ・教科会で、生徒の様子や指導方法について交流する。
（教員の悩んでいること・話し合いたいことの集約とそれについての情報交換）
- ・授業で、生徒の学びの状況を見取り、生徒同士が学び合う場面を作り、生徒が主体的に学ぶ授業となるよう工夫する。
- ・重点指導項目の取組状況について、教科会で中間報告を行い、指導改善について話し合う。（12月に第2回英語学習への意識・実態把握調査を実施予定）
- ・「授業力向上・授業改善自己プラン」（高知南中高授業改善の取組）の研究授業では、指導案検討会で評価方法についても協議し、付けたい力を明確にした指導を目指し、指導力の向上を図る。授業後は、各自が成果と課題をまとめ、2学期の実践交流会を1月に開く。
- ・11月22日「高知南中学校・高等学校グローバル教育研究報告会」では、本年度の授業改善の視点「互いの考えや気持ちを伝え合う力（中学校）」、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力（高校）」の育成を目指して授業を行う。

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

高知南：英語教育プログラムについて

平成28年度の取組状況 (D)

⑤ 各学年団指導教員による調査分析

- ・学年団で分析をし、今後の重点指導項目を設定した。11月に中間報告を行う。

(分析方法：研究主題・本年度の授業改善の視点から、成果及び課題のあった調査項目とその指導を振り返る。今後の重点指導項目、そのための指導方法等を話し合う。)

<中学校2年生指導教員による分析>

◇成果が見られた項目 (成果につながったと考える指導や学習活動)

- ・「積極的に英語を使っている」

(ペアで話す活動や音読を継続して取り入れたから。)

- ・「英語を聞くことが好き」

(身近な話題について話す活動・聞く活動を通して、仲間のことを知ることを楽しんでいるから。)

◆課題が見られた項目 (不十分だったと考える指導や学習活動)

- ・「人前で話すことが好き」、「英語で自分の意見や感想を言うことが好き」

(自信をもって話すことができるまで十分練習させることができなかったため、達成感につながっていない。)

○今後の重点指導項目 (今後行う指導方法や学習活動)

- ・「英語で自分の意見や感想を言うことが好き」

(言語の使用場面を明確にした表現活動、自己決定の場の設定、練習時間の確保)

【平成28年度 到達目標】

学習の振り返りをし、学習者の習得状況を教員及び学習者にフィードバックする。



自分で「課題を発見する力」、「課題を解決する力」、「考える力」を身に付けている。

